

## 令和８年度６月期古賀市社会教育委員の会議 議事録

【 会議名称 】 令和８年度６月期古賀市社会教育委員の会議

【 日 時 】 令和８年６月１９日（金） １８時３０分～２０時００分

【 場 所 】 リーパスプラザこが交流館 大会議室

【 内 容 】 古賀市の社会教育の現状について

【 出席委員 】 園議長、石川委員、梅谷委員、江口委員、大賀委員、倉掛委員、坂崎委員、藤田委員（以上委員８名）

【 欠席委員 】 安部委員、橋爪委員

【 事務局 】 生涯学習推進課長、職員２名

【 傍聴者数 】 ０名

(配布資料)

- ・レジュメ

## 1. 開会

## 2. 協議事項

- ・古賀市社会教育の現状について

(園議長)

今回の笑顔のつどいについては、若い世代にスポットを当てましょう。古賀市の社会教育の現状について、地域学校協働活動の取り組みについて深めていくのはどうかと思っています。これまで、みんふるや、少年の船、寺子屋の話が出ましたので、若い世代の活躍について報告やご意見をお願いします。

(大賀委員)

少年の船は、小中学生が参加しているけれど、支える側の次の世代が育たない現状があり、ボランティアとして参加する子どもたちが決まっていると聞きました。長く続いている団体なので子どもたちがどう受け止めているか聞いていきたいと思います。参加する子どもたちが集まりやすいようなきっかけがあればいいと思います。

(石川委員)

地域の太鼓原人の子どもたちは先生がいなくても自分たちで教え合って、下の子どもたちを育てています。玄界高校の邦楽部の子たちは大会で優勝している子たちです。そういうエネルギーのある子たちにも話を聞いてみたいですね。

第8回笑顔のつどいの少年の船の発表では、実際に参加した子どもたちの声をもっと聞きたかったです。

(倉掛委員)

小学校の参観日では保護者向けにメディアの講座を行っていました。参加者が多く、関心が高いと感じました。子どもの育ちのために保護者が学ぶことは重要です。意欲がある人は自分からどんどん学んでいきます。

(坂崎委員)

学ぶ機会は、コロナ渦で行事がなくなって、講演会をしたくても主催者側にもノウハウがないのが現状です。昔は学ぶ機会が保証されていましたが、今は少ないです。以前、小学校低学年と未就学児の保護者向け対象の講演会を企画しました。内容はとても良かったです。

参加者が少なかったです。

(梅谷委員)

社会教育の最大の課題は、「学ぶ機会」そのものが減少していることです。かつては、保育園でも講演会があり、小学校に行ってもあったのに、今はすっかりなくなってしまいました。その結果、「学ぶことを忘れてきている」という世代が生まれています。学ぶという習慣が失われると、次の世代も学ばなくなるという悪循環に陥ります。

私たちの時代は、保育園から小学校、中学校へと進む過程で、常に「学ぶ機会」が用意されていました。そこで学んだことが、大人になっての社会参加につながっていました。

しかし、今はそういう機会がなくなってしまい、次の世代が育っていない。どう参加させるか。どこにアプローチするか難しいと感じます。

(藤田委員)

講演会というと、ハードルが高く感じる人も多いです。今は調べることもできるので、もっと気軽に参加できる「学びの場」を作る工夫が必要だと思います。

(倉掛委員)

学びの場を復活させるには、まず「機会があった」ということを認識することが重要です。その上で、「どうやってそういう機会を作るか」を考える必要があります。全保護者が来るわけではなく、3人でもいいから、「来てくれてありがとう」という姿勢で、小さな学びの場を作っていくことが大切だと思います。

(梅谷委員)

人と繋がって学ぶことの価値を、もっと伝えていく必要があります。パソコンを使って一人で学ぶこともできますが、地域の同じような仲間と共有することの価値は全く違います。また、若い人も役に立ちたくないとは思っていないので、地域の中でもっと若い子を頼ったり、意見を聞いたりしていくようなやり方があればと思います。

(石川委員)

東校区は地域の運動会が続いています。他の校区はやめたところが多いですが、継続していることがいいなと思います。

(坂崎委員)

青柳小の寺子屋は校区コミュニティの一環として行い、PTCA で連絡してもらい保護者からボランティアを集めました。去年は、古賀寛成館高校のボランティア部が小学生に勉強を教えていました。

(園議長)

ハマぼうまつりでも古賀竟成館高校ボランティア部が参加していました。校区コミュニティが主催で多くの人が参加しています。

(倉掛委員)

地域コーディネーターが地域によって機能しているところとしていないところで差があるのが現状です。

(梅谷委員)

どこに人材がいるか窓口が必要で、ネットワークがあるとつながりやすいです。

(坂崎委員)

毎年の会議で地域の人材を集めていますが、謝金がついていません。事業費予算を付けないと実施ができないと思います。人件費、事業費もつけなくて「活性化してください」というのは、無理があります。他市は出ていますが古賀市は出ていません。

(園議長)

わずかですが謝金がついています。事前に事業を計画して予算を組んでいたらあると思います。

(倉掛委員)

地域学校協働活動で予算がついていれば、学校と地域コーディネーターで事業計画を立てることができますが、それが無いのがおかしいと思います。人脈頼みではなく、システムにしないと継続できません。

地域の側からすると、誰に相談すればいいのかわからないことが多いです。学校に「こういう活動をしたい」と相談しても、「それは誰に聞いたらいいの?」という返答になることもあります。

基本ボランティアでもいいけれど、地域学校協働活動で予算を出してほしいと思います。

地域学校協働活動に関わる予算が十分ではないのも課題です。

古賀市では、ゲストティーチャーの謝金が本当にわずかです。予算がないと、地域の人たちも遠慮してしまい、活動が成立しません。

(梅谷委員)

介護保険の分野では、生活支援コーディネーターが法律で位置づけられ、予算も組まれています。同じように、地域コーディネーターも、制度上の位置づけと予算が必要ではないでしょうか。

(園議長)

古賀市では、各学校に学校運営協議会が設置されていますが、地域学校協働活動の推進体制については、十分に整備されていないのが現状です。

(江口委員)

校長先生が学校を異動したら、地域コーディネーターの人に聞けば人脈があるからなんでも分かるので、大変助かります。子どもたちの授業もいいほうに変わっていきます。古賀市は他市に比べて学校教育面では恵まれていると思います。

(園議長)

もし、今回の笑顔のつどいで、発表団体として少年の船を呼ぶのであれば、前もって出発前に少年の船に依頼したいと思いますがいかがでしょうか。それとも寺子屋など他の取り組みにするのか。

(梅谷委員)

青少年活動の団体がどんどん減っています。呼ぶとしたら自由な発表ではなく、テーマを絞って呼び、課題から何を学ぶかという内容にしたほうがいいと思います。

(園議長)

今年度は参加者である若者、大学生の視点や支え、子どもたちがどうして参加しようと思ったか、参加してどうだったかを聞いてみたいと思います。

(大賀委員)

福津市の「場スクール」という取り組みがあると聞きました。60代から高校生まで、様々な世代が一緒に学んでいるそうです。古賀市でも、そういった取り組みを参考にできるかもしれません。

(倉掛委員)

定例会でいろいろな団体を呼んで話をしてもらうのはどうでしょうか。

(園議長)

定例会で呼んで話してもらい、笑顔のつどいで発表いただくこともできると思います。次回の7月の会議でテーマ等を決めていきたいと思います。